

来賓メッセージ

## 日中の今後を占う実りあるものに

日本経済新聞社 代表取締役社長 杉田亮毅

(日本華人教授会議会員 王敏代読)

「日本華人教授会議 創立4周年記念シンポジウム」の開催を、心よりお祝い申し上げます。朱建榮先生よりシンポジウムへのお招きをいただきましたが、所用のため、どうしても出席できません。お詫びするとともに、文章にて祝意を表したいと思います。

日本華人教授会議が創立時に作った会則を拝見すると、会議の目的の一つに「中日間の友好、相互理解と信頼関係を促進する」とあります。華人教授会議は創立から今日に至るまで、様々な活動を通じて、まさに、この「友好促進」という目的を実現すべく、奮闘されてきました。

日中関係は昨年まで「政冷経熱」などと表現されるくらい、ぎくしゃくした面がありました

が、国交正常化35周年にあたる本年は、わだかまりが氷解し、非常に良好な状態に移行したと思います。両国関係が好転した背景には、華人教授会議をはじめとする、中国の各方面の方々の並々ならぬご努力があったことを、我々、日本人は忘れることはできません。

日本経済新聞社も日中間の交流促進のお役に立とうと、いくつかの事業を手がけております。そのうち、2006年から始めた中国の大学生を対象にした「全中国日本語スピーチコンテスト」は、華人教授会議をパートナーとして開催しております。特に、本日のシンポジウムで登壇される朱建榮先生、王智新先生には細部にわたるまで、ご協力、ご指導をいただいております。華人教授会議のお力添えがなければコンテストはできない、といっても過言ではありません。

さて、本日のシンポジウムですが、メインテーマを「戦略的互惠関係の充実化を目指して」とされました。日中両国のあるべき関係を探る、鋭いテーマである、と敬服しております。講演や討論が、日中の今後を占う実りあるものとなることを期待し、また、シンポジウムの成功をお祈りして、私の挨拶を終えたいと思います。



(3頁より続く)

があります。これは、中国一国の問題ではなく、近隣諸国全てが影響を受ける問題ですから、お互いに協力していく必要があります。

東アジアの環境協力機構をまず手始めとしてつくるのがよいと思います。関連するエネルギーの協力関係も重要です。そして食料の安全保障問題もあります。このような問題を、歴史認識、政治問題を超えて、現実的に着実にできるものからやっていく中で、共通の価値観、共

通の認識を育成できると思います。また、若い世代の交流も大切だと思います。

新しい崔天凱大使がお見えになりましたが、この大使の下で、我々は日中関係をより好い方向に持っていかなくてはならないと思っています。

日本華人教授会議はこれらの問題の改善に向けて、単なる議論ではなく、より具体的、且つ建設的な提言を行っていただきたい。